

大空に映える

まなびの大地

大森小

July 2026

学校だより

文月の章

まちに飛び交う 愛メッセージ

校長 今 将史

葬儀の場で思い出したこと

先日、近所にお住まいだった方の葬儀に参列しました。私の母と同世代の女性で、とても優しい方でした。手を合わせ哀悼の意を表しながら、20年前に亡くなられた、その女性のご主人のことを思い出しました。

その方は昔気質の大工さんで、ご自宅の周りや縁の下には木切れなどの木片・木材がたくさんありました。私たち近所に住む子供たちは、その木切れが欲しくて、縁の下に潜ったりしたのですが、当然しかられました。断りなく敷地内に入らない、勝手に物を取らないということをお教えたのです。思い返せば、「地域の子は我が子と同じように見守り声をかけていこう。」という気持ちの表れを強く感じます。そういう方はほかに何人もいて、私が社会人になってからも指摘してくれたり、助言してくれたりして、いろいろ面倒をみていただきました。今もその方たちに感謝しながら過ごしています。

終業式で子供たちに話したこと

本校に勤務して4か月、少し気にかかることがあります。児童が下校してしばらく経った頃「遊んではいけない場所で遊んでいる子たちがいるので注意してほしい。」「敷地内の物を壊されそうで困る。何とかしてほしい。」といったお電話を何度か頂きました。情報提供という点では有難いのですが、「なぜ、その場で注意してくださらないのか。」という点では疑問が残ります。その子(たち)の身の安全や将来のことを考えれば、直接その場で声をかけてくださることが一番良いことは明らかです。ですが、そうしない理由、例えば、注意に反発されるのは嫌だ、近所付き合いに亀裂が入りそうといったものがあるのかもしれない。

夏休み前の1学期終業式では、先ほどお伝えした私の思い出をもとに話をしました。自分(たち)のことを思って、地域の方が勇気を出して注意してくださったら、どんな言葉を返すのかを考えさせました。

「心配かけてごめんなさい。」「注意してくれてありがとう。」と返せる・思える人に育てることができかどうか。保護者の方と私たち教職員、共通のミッションであると考えています。